真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7 年度

# 事務事業評価マネージメントシート

作成日　令和8年3月12日

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 中心市街地活性化事業 | | 担当課・係 | 産業部　商工観光課　商工業係 | |
| 政策名 | No 3 | 「にぎわいづくり」～まちの活力アップ！～ | | 【重点】総合計画重点事業 | |
| 施策名 | No 2 | 商業の振興 | 事業期間 | 毎年度実施　（開始年度年度～） | |
| 関連個別計画 | | | 関連するSDGs･DX | | |
| 法令根拠 | | | | | |
| 事業内容 | ①まちなか活性化協働推進事業補助事業 ②まちなか新設出店にぎわい創出支援事業 | | | | |
| 求められる成果 | ①<br>・真岡ふるさと遺産である「真岡木綿」を核としたイベント「もおか木綿フェスタ」を開催することで、その歴史や魅力を発信するとともに、他イベントと同日開催することにより、中心市街地のにぎわい創出の相乗効果を図ることができる。<br>②<br>・「真岡市空き店舗等活用事業」の対象区域が令和8年度からの「中心市街地リノベーション事業」と重なる区域について、補助額の増額及び空き家・店舗併用住宅への機能分離工事補助を新設することにより、空き店舗等の解消と創業希望者への支援に繋がる。 | | | | |
| 前年度記載「今後の方向性と課題への対応・改善策」 | ②空き店舗情報を十分に把握できていなかったことや補助対象物件が空き店舗のみに限定されていたこと、物件所有者が賃貸提供に消極的であることなどが、新規出店者数が伸び悩んだ原因としてあげられる。 | | | | |
| 事業概要・施策実施状況 | ①<br>・令和4年度から真岡商工会議所主催の「もおか木綿フェスタ」を毎年開催している。真岡木綿に特化し、機織り体験のほか、真岡木綿展示会、真岡木綿の着物を着用したまちあるきなど様々な内容のイベント実施しているが、にぎわい創出には至っていない。<br>・令和5～7年度　栃木県「わがまちつながり構築事業交付金」対象事業<br>・令和６年度は市制施行70周年記念パレード及び真岡商工会議所青年部主催グルメイベントと同日開催し、中心市街地のにぎわい創出を図った。<br>②<br>・令和6年4月　「真岡市中心市街地空き店舗等活用事業補助金交付要綱」の空き店舗の定義と対象業種拡充<br>・令和6年9月　商工観光課職員により補助金対象エリア内の空き店舗実態調査実施<br>・令和7年2月　「真岡市中心市街地空き店舗等活用事業補助金交付要綱」対象物件拡充<br>・令和7年2月　空き店舗バンクの運営を市に移管<br>・令和7年3月　（公社）栃木県宅地建物取引業協会と「真岡市空き店舗等バンク媒介に関する協定」締結<br>・令和7年6月　「空き店舗等の有効活用等の促進に関する連携協定」締結 | | | | |

## 1.現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

ア）手段（主な活動・Do）

令和7年度実績
①「木綿と魔法のハロウィンマルシェ」と題し、6つのイベントを集約し同日開催。またmonacaからの回遊性を図るため、各イベント箇所スタンプラリーを実施。
②・市において空き店舗バンクを運営、空き店舗実態調査を行い、所有者への登録勧奨を実施。
・空き店舗等活用事業補助
・5者連絡会議を開催（3ヶ月に1回程度）し、業務アプリ（キントーン）を活用した情報共有、市HPへの情報発信を実施。

イ）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）の推移

| | 名称 | 単位 | 初年度からの実績値の比較 R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | まちなか活性化補助金交付額 | 千円 | 704 | | | | |
| ② | 空き店舗バンク登録数 | 件 | 2 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

ウ）対象（誰を、何を対象にしていますか）

※人・自然資源等

エ）対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移

| | 名称 | 単位 | 初年度からの実績値の比較 R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 真岡市民 | 人 | 75,890 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

オ）意図(この事業によって、対象を成果に導くための方向性どう変えたいですか)

中心市街地のにぎわいを創出するため、イベントを絡めた回遊性の創出や、空き店舗等の利活用を促す支援・強化を行っていく。

カ）成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移

| | 名称 | 単位 | 初年度からの実績値の比較 R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | 目標値 R11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | お祭りやイベントの満足度 | % | 43.0 | | | | | |
| ② | 空き店舗等活用補助金【改装費交付件数】 | 件 | 3 | | | | | 6 |
| ② | 空き店舗等活用補助金【家賃交付件数】 | 件 | 5 | | | | | 6 |
| ② | 空き店舗等活用補助金【機能分離交付件数】 | 件 | 0 | | | | | 2 |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

（2）総事業費(決算)の推移（単位：千円）

| | | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 財源内訳 | 特定財源 国・県支出金 | 352 | 350 | 0 | 0 | 0 |
| | | 特定財源 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 特定財源 その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 一般財源 | 2,871 | 6,980 | 0 | 0 | 0 |
| | 事業費合計 | | 3,223 | 7,330 | 0 | 0 | 0 |
| | コスト対前年比 | | | 227.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

2.1次評価の部　※原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1)目的妥当性評価

①政策体系との整合性：事業の目的（対象・意図）は市の政策体系（結果）に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当ですか？

【評価理由】
商業の振興に結び付いている。
中心市街地における空き店舗は増加しており、中心市街地のさらなる魅力向上を図り、中心市街地の活性化に繋げる。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

②公共関与の妥当性：なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？　民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？

【評価理由】
①にぎわい創出の合同イベントに関しては、市、商工団体、民間が連携し協働で事業を進める必要がある。
②空き店舗等の利活用については、出店に係る経済的な負担を支援し後押しする必要がある。

□ 市が行わなければならない。　■ 市以外でも可能である。

③対象と意図の妥当性：事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？

【評価理由】
①中心市街地への人の流れを作り活性化を図るため。
②中心市街地への出店により、市民が集いにぎわいが創出されることで地域の活性化に繋がる。

■ 対象・意図を見直す必要はない。　□ 対象を見直す。

(2)有効性評価

④成果の向上余地：事務事業の成果は出ていますか？事務事業のやり方を見直した結果、向上余地があるか判断してください。

【評価理由】
②空き店舗所有者や空き店舗の利活用を希望する方へのアンケート調査結果から、支障となる不安等を把握し支援方法の在り方を見直すことで、空き店舗の活用を向上させる余地がある。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

⑤類似事業との統廃合・連携の可能性：類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？　ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？

□ 類似事業と統合・連携ができる　【類似事業名】
□ 類似事業と統合・連携ができない　【評価理由】
■ 類似事業はない

(3)効率性評価

⑥事業費の削減余地：成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできますか？実施方法の適正化によりコスト削減をできますか？

【評価理由】
必要な事業を行うための最小経費である。

■ 削減余地はない。　□ 削減余地がある。

⑷事務事業の課題(Check）事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、予算上の課題点、費用対効果向上のための課題
①一過性のイベント開催に頼らないよう、日常的に回遊性を高める仕掛けづくりが必要である。
②物件所有者及び利活用希望者のニーズを把握し、ニーズに合った支援方法により効果的なマッチングに繋げる。

⑸今後の方向性と課題への対応・改善策（Action➡Plan）
□ 現状維持　■ やり方改善　□ 目的拡充　□ 目的絞り込み　□ 統合　□ 廃止

①ただちに取り組むべきこと
①合同イベントを定着させるための工夫
②空き店舗の現状確認のための調査

②長期的な計画で検討すること
①イベントに頼らない回遊性の仕掛けづくり
②空き店舗等バンクへの登録数の増加

（6）改革・改善による期待効果

| | | コスト | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 削減 | 維持 | 増加 |
| 成果 | 向上 | | ■ | |
| | 維持 | | | ／ |
| | 低下 | | ／ | ／ |

3.2次評価

（1）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み
□ 目的拡充　■ 事業やり方改善
□ 予算削減　□ 予算増大
□ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（2）その他2次評価会議で指摘された事項
①イベントによる回遊性向上に周辺店舗も巻き込みつつ、イベントに依存しない持続的な回遊性の仕組み作りを検討。
②商工団体やNPO等と連携し、物件所有者及び利活用希望者のニーズ把握を検討。

（3）改革・改善による期待効果

| | | コスト | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 削減 | 維持 | 増加 |
| 成果 | 向上 | | ■ | |
| | 維持 | | | ／ |
| | 低下 | | ／ | ／ |